いっぺいといっぷく

その38

市長は長久手をどんなまちにしたくて、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。
みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。
また、市HP【にょぜがもん】もぜひご覧ください。
[市HPのトップページから「にょぜがもん」をクリック。]

子牛の通った小道

先日、民間に勤める若者と話したとき、「一度始めた仕事は、止めることができない」「おかしいと疑問があっても、変えることができない」という職場の悩みを聞きました。

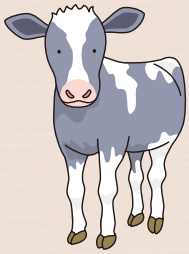
その若者たちに、私は、アメリカの詩人サム・ウォルター・フォス(1858-1911)の「子牛の通った小道」の話をさせてもらいました。

ある日、草原を一匹の子牛が気まぐれに散歩していた。くねくね曲がりながらその野原を通っていった。

あくる日、鹿が狩人に追われ、子牛の通った草がねているあとを逃げていった。その次の日は羊が、その小道を通った。その後、多くの動物や人々が、この曲がりくねった小道を「くねくね曲がっている」と不平を言いながら通っていった。

やがて、小道は曲がりくねった大通りになった。またたくうちに、そこは大都会の中心になった。何十万人もの人々が、今もなお、300年もの昔に通った、あの子牛に導かれて、くねくねと曲がりながら通っていく。

確固たる前例なるものは、こんなにまでも尊ばれるのだ。



みなさんにも、ただ、何となく始めたこと、偶然始まったことでも、延々と続くと、「変えられない、止められない」という経験があるのではないでしょうか。

私は、若者たちに「重大そうに見えることでも、ことの始まりは、『子牛が偶然通った』くらいのものも多い。自分達に『こうしたい!』という思いがあるならば、勇気を持って、仕組みを変えたらどうだ。そのために、関係者で話し合ったらどうだ」と伝えました。同時に、「自分の仕事を良くしていきたい」と悩んでいる若者を心強く思いました。

この話をしたときに、私が市長に就任した際、市役所で当時の部長たちに、この「子牛の通った小道」を例に出し、「これまでやってきたことを見直そう」、「笑顔であいさつをして、市民の目を見て話を聞くことをしよう」「私たち市職員が変われば、市民も変わる」と話したことを思い出しました。

平成27年国勢調査の速報値で、全国の約8割の自治体で人口が減少していると発表されました。全国の多くの自治体が、生き残りをかけ、行政も市民も知恵を絞っています。初めての人口減少社会においては、何がその解決策なのか誰も分かりません。前例踏襲ではなく、思い切って発想を変える勇気を持つことが必要なのです。

表紙の写真もう一枚

6月から2カ月に渡って、市内20カ所で演奏会を行った音楽イベント「おんぱく」が、8月7日にフィナーレを迎えました。本物の楽器に触れる体験や、楽器作り体験などが行われ、大人から子どもまで、来場者全員が音楽を身近に体感できるイベントでした。

スマートフォンで広報ながくてを持ち歩こう!
App Store Google Play 「ながくて」で検索▶ダウンロード

この広報紙の無断転載を禁じます。 視覚障がい者のみなさんにも家族から読んであげてください。

この広報紙は、植物油インキを使用しています。
VEGETABLE OIL INK

広報ながくて
No.642 発行/愛知県長久手市 編集/市長公室情報課 TEL/(0561)63-1111 FAX/(0561)63-2100 〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1 ホームページ http://www.city.nagakute.lg.jp